

『やがて二人は部屋を出る』

作・広田淳一
2019/05/19-

前提

◎表記としての解説と上演の際についての注意

- 【ノ】 読点。常用の意味と同じ。 ※意味の区切りとしての使用と、時間的に間を空ける意味での使用と二通りある。この記号の前後が連続的に発音されてもよい。
- 【。】 句点。常用の意味と同じ。 ※注意は右に同じ。
- 【・】 中黒。固有名詞などの他、特に時間的に間を空けて欲しくない場合の「読点」として使用される。 ※この記号の前後は連続的に発音される。
- 【★】 黒星。前の人物の台詞の語尾に重ねて言う。 ※いわゆる食い気味。
- 【☆】 白星。近くにある同じ数のこの印の付いた台詞が同時に発話される。意味上は無関係。 ※舞台上に複数の会話が存在する場面で使用する。「同時」の厳密性には拘らない。
- 【ノ】 スラッシュ。台詞中で使用される。間髪入れずに台詞の調子・方向性を切り替える。
- 【≡】 イコール。

【使用1】語尾に「＝」が付き、続く行の語頭に「＝」が付く場合、間髪入れずに次の台詞が始まる。

【使用2】語尾に「＝」が付き、行（他者の台詞）をまたいで語頭に「＝」が付く場合、それらは連続した発音である。 ※ある人物の台詞の間に挿入される他者の発音、あるいはち等を待たずに話し続ける、という意味。「無視せよ」という意味ではない。音声の被りが発生する。

【□】 大カッ□。近くにある回数がこの記号と同時のタイミングで始まり、音声が被ったまま発話される。

【▲】 黒三角。会話しながら退場する。

【△】 白三角。会話しながら登場する。

【――】 ダッシュ。読点より長い時間的、あるいは心理的な「間」。

【「間」】 「一拍」沈黙。「間」の方がより長い。

（ ）のような括弧内の文字は発音されない。

（ ）のようないくつかの傍点付きの台詞は強調の意味。強調して発音するとは限らない。

◎登場人物

大村由夏 ……三十代女性。会社員。事務職。

篠崎球太 ……二十代男性。フリーター。

田中茉莉 ……四十代女性。バーレスク・バーの店長。

篠崎聡信 ……四十代男性。球太の兄。会社員。既婚。子供あり。

一場 由夏と球太 その1

ラブホテルの一室。椅子が二つ、ローテーブル、ベッドがある。舞台奥に浴室。部屋の何処かにコーヒーカーップ、電気ケトル、小型の冷蔵庫。

一組の男女（大村由夏と篠崎球太）が部屋に入っている。

球太 おー。なにこれ？＝

由夏 　＝すごい。

一拍。

球太 なんか、すげえ赤いんだけど（ホテルの内装についての感想を短く述べる。装置次第）

由夏 ねえ。ちよっとへんな感じだけど。

球太 ええ？ いいじゃん・いいじゃん。

球太、ベッドに身を投げ出っぺい。

球太 うえー。ははは。

由夏 なにやってんの。

球太 あー。久しぶりにでかいベッドだ。もうなんか、家のが小さくてさ。

由夏 （荷物を椅子に置きながら）そうだったけ？ 別に普通じゃなかった？

球太 や、そつだよ。普通のシングルだよ＝

由夏 　＝ねえ。

球太 まあ、——ちよっと小さめかな、へらいなんだけび。や、でも、普通のシングルが窮屈と
いつかね、やっぴいさへらとあると違っじやこ。

由夏 まあ、そつだね。

由夏も椅子、よ、もこへはベッドの端に腰掛ける。
間。

由夏 飲み物買っつてくれれば良かったね。

球太 えー、なんかあるのよ？ 無し？

由夏 や、あると思っつて、べび——言くなこ？ じいさるわい。

球太 いっじやん・いっじやん、そへらと＝

由夏 　＝え、勿体無いじゃん。同じ値段のものに言っお金払っぺい。

球太 ★大した額じゃないでしょ、あ、じゃあ、なんかタタのやっあるんじゃない？ じいさる
わい。

由夏 (探す) ああ、そっか。
球太 ホラ、お茶とか、コーヒーとかさ？
由夏 ああ、あったあった。
球太 そんなじゃあ、——お湯沸かす？
由夏 あ、でも、違う。さっきお茶買ったんだったあたし＝
球太 〓ええ？ そうなの？
由夏 うん。

と、由夏、自分のカバンを探ってお茶を取り出す。

由夏 ね？
球太 (憐んで) ——全部忘れちゃうからな。
由夏 (それに同調して) ねえ。
球太 瞬時に。もう、秒で忘れてんじゃん。
由夏 ヤバいんだよだから、最近。拍車がかかってるっていつかさ＝
球太 〓えー、忘れっぽやろ？
由夏 ★だっってこないだなんか／ちょっと聞いてよ、もう酷くて＝
球太 〓なになに。
由夏 家出でさ、玄関の鍵閉めようってなった時に、あ、忘れ物した、ってなって＝
球太 うんうん。
由夏 〓それでもう一回部屋に入るじゃん？ ああ、それじゃ、まあ、ついだからトイレも行くつうか、ついでにトイレいって＝
球太 うん。
由夏 〓それでトイレしたらそれで気が済んじゃってまた外出ちゃって＝
球太 ああ。
由夏 〓それでもう一回鍵閉めようってなってる時に、違う、忘れ物を取りに戻った、っていうことをまた忘れてる、って気づいたっていうね。もう、バカバカあたし、って、
球太 ——病気だね、もう＝
由夏 〓や、だから病気なんだって＝
球太 〓ああ、そっかそっか。——あ、お風呂入れようよ、お風呂。
由夏 え？ ああ、そっか。お湯入れとかないとか——。んん——慣れてるねえ。
球太 ええ？
由夏 なんかいついついっ。
球太 ★いや、慣れてねえけど別に。だっってお風呂入りたいでしょ？
由夏 入りたい。もう、汗やばい＝
球太 〓ね。だからちよっと入れてきちゃって。
由夏 ああ、なに、ああ、(あたしが、か)
球太 ね、お願い・お願い。(由夏のカバンを示し)そんでほら、一緒に着替えてきちゃってよ。

由夏 ああ、——着替え。

球太 え、まさかまさか？ 持ってきて来て無いの？

由夏 や、持ってきて来るけど。ああ、——着替え、する？＝

球太 〓するする／ええ、なんで？——しないの？ したくないの？＝

由夏 〓いやいや、そんなことは無いけど。ああ、そうだよね、——や、なんか忘れてたっけい
うか、

球太 もうー、大事なことはちゃんと覚えておかないと。

由夏 ははは。ねえ。

由夏、浴室の方へ退場。

球太は自分のカバンから何やらドリンクを取り出して飲む。

そのあと、再びベットに横たわる。

球太 うえー。

お湯の入る音がつつすら聞こえてくる。以下のやりとり中、由夏は舞台外。

球太 ていうか、暑さ異常じゃなかった、今日？

由夏 なにー？

球太 暑さがさ、尋常じゃなかったよねって。

由夏 ああ、ねえ。おかしいよね、二二二、三三三。

球太 ここはインドなのか、っていうね。そんな暑さに耐えられる体じゃないのよ、俺は。

由夏 インドじゃないよ。二二二は。

球太 じゃあ、どこ？——アフリカ？

由夏 日本に決まってるでしょ。

球太 わかんねーよー？ 日本の中にアフリカがあるかもしれないだろ？＝

由夏 ええ？

球太 〓だって東京の中にドイツ村があるんだからね？ いろいろ不思議なことがあるんだ
よ、世界にゃよー。

間。

由夏、戻ってくる。退場前と同じ格好だが帽子を被っている。

球太 わかった？ お湯の入れ方。

由夏 うん。なんか蛇口が変なやつだったけど。

球太 なに、へんてこ？

由夏 (実演して) なんか、こんなん、こんなんになって。

球太 (理解できない) ふーん。——え、着替えた、ちゃんと？

由夏　——うん。

球太、由夏の帽子を取る。由夏、猫耳をつけている。

球太　うーん。なるほど・なるほど。

球太、由夏の耳（実際の）や首筋の辺りにキスをしたり、舐めたり擦ったりする。

由夏、少しだけ声が漏れるが抑え気味。

由夏　お風呂入ってからにしよう。ね？

球太　じゃあホラ、後ろ向いて、後ろ。

由夏　お風呂入ってからにしようって。

球太　わかったから、とりあえず後ろ向いて後ろ、後ろ、を回し給え。ホラ、（椅子を指して）
ここに掴まり給え。

由夏　うーん。

由夏、椅子、もしくは壁に手を付くなどして後ろを回く。と、お尻にしゃがみ込み、じっくり見る。

球太は由夏のしゃがみ込みが自分の顔の正面に来るようにしゃがみ込み、じっくり見る。

球太　いやー、なるほど・なるほど。やー、なるほどー。

由夏　（笑って）ねえ、なるほど、しゃがみ込み。

球太　★いやいやいや、しゃがみ込み。まあ、——いいものだなあ、とじっくね。

由夏　ハハ。ああ、はご。

球太　うーん。——すばらしい。うん。

球太、由夏のお尻に顔を埋めてふとももの付け根あたりを舐める。

球太　ふあーっ！

由夏　★ちよっっ！　ちよっ、やめっっ！

球太　え、舐めて？　舐めてっ？　「よし、わかった。舐めよう。舐める。舐めるよ。」

由夏　「言っていない！　言っていないから、ちよっ、ねえ、お風呂入ってからにしようって＝
いいからいいから。」

由夏　＝ホント今日は汗いっぱいいたからダメだって、やめて、やめて、

球太、立ち上がって、由夏を振り向かせる。

球太、キスをして、首筋をすく舐める。かなり大胆に舐め続ける。

由夏　ちよっっ、ダメダメダメ。「お風呂入ってからにしよう。ね＝

球太 「いいから、いいから。大丈夫だから。」

由夏 「マジで。ホントにホントに。今日は、マジで無理だから。」「汗がホント、ヤバいっていったじゃん？ ちょっとー。」

球太 「「ホント平気。ホント平気。ホント平気。ホント平気。」

由夏 ダメだって、もうー！

由夏が突き放すような形で球太、舐めるのを中断させられる。
ただ、依然として二人は手をつないでいられる距離。

球太 ——汗をだから、——いっばいかいたっていついじょうじょう？＝

由夏 「うん。そうそうそう＝」

球太 「え、そのなになが悪いの？」

由夏 だって、——え？——汚いから。

球太 ★汚くないー！

由夏 や、ちょっと、気になるでしよっわ。

球太 ★気にならない！ もう、全然そいつのは大丈夫だから、「俺は。ホント平気。ホント平気。ホント平気、いいから・いいから、もういいから。」

由夏 「え、だって、ニオイとか。汗臭いのやでしよ？ っついついのもあるし、恥ずかしい。恥ずかしい。恥ずかしいから、ちよちよちよ、無理無理無理無理。」

球太 (本気で) いい加減にっついついー！

一拍。

球太 何を恥ずかしがってんだ！ バカ！

由夏 ——いや、バカって(いわねても)

球太 ★いや、そりゃ恥じらいは大切だよ。大切だ、けれども。もう、——恥じらって恥じらって、何をそんな／はあ？——汗臭い？ いや、汗かいてんだから汗臭いのは当たり前じゃーっ！——っついつかね、汗を臭いとかいっつのがそもそも間違ってたケモノ的では。臭くない！＝

由夏 「臭いっわ。」

球太 いや、臭いはする。——けれどー！ っついついだっついてもなっついつい。ええっ。汗がっついつい汗かいて、「あたしっついついをシャンプーの香りがっついついのオ」っついついそんなやっついついるかーっ！

間。

球太 つたへ由夏はせし。

由夏 ★え、え、今、何を怒られたのあたし？

球太 や、怒ってないよ別に。怒ってはいない、けれども＝

由夏 Ⅱだから、お風呂に入りたいなーっていう、それだけの「ことなんだけどさ、

球太 「お風呂に入ってしまったら・んー、台無しだ！

一拍。

由夏 やめて、急にそうやって大きい声出した。

球太 ★違う違う違う。急にじゃない。あくまで冷静だ、けれども＝

由夏 Ⅱえ、台無し、って、なに？ 何が台無し？

球太 いや、だから汗を流す前にもう一汗かいてみるのも悪くないと言っかね。——お風呂に入ってからもう一汗かいてしまおうというところ、それは、せっかく洗ったばかりのスニーカーで泥道を歩くがごとしというかね、換気扇掃除の直後に天ぷらを揚げるがごとしというかね、

由夏 なにをいついつなの？

一拍。

球太 いや、じゅん。なんか。んー。じゅん。——ちょっと興奮してたね。性的に。——性的な意味で興奮してしまったね。

由夏 うん。まあ、わかるわよ。

一拍。

球太 やあ、最悪だもう、ね。せっかくの、ふー。ねえ、誕生日だってさうなの。

由夏 ★いやいやいや、いいんだけどそれは。——むしろ、今日は別にね、あたしの誕生日祝いでもあるけど、球太の誕生日祝いも兼ねてさういうつか、お互いにお祝いするってさういうつか、さういう誕生日合戦というかね、まあ。

球太 合戦？ これ合戦だったの？

由夏 いや、流していいから、そこは／や、じゅんなんかあだしも。

球太 ★いやいや。

と、球太の携帯端末にメッセージが入った音がする。

由夏 ん、球太じゃない？ 出なくてさうなの？

球太 (着信音で判断して) や、これメッセージだから、「別」。

由夏 「ああ。

球太、携帯端末を取りに行き、それを見る。届いたメッセージを読む。

由夏、それを覗きこ近づいてみる。

由夏 (明るく) なになにー？

球太 え、兄貴から。

由夏 ああ、ノブさん。え、なんて・なんて？

球太 ええ、なんでもないけど別に。まあ、なんか——プレゼント何がいい？ って。

由夏 ウソ。え？ 球太にプレゼントなんかくれんの？

球太 まあ、そりゃくれるでしょうよ。

由夏 ええ？ そろそろいつもの？

球太 だって、家族だし。

由夏 え、じゃあなに、ノブさんの誕生日には球太もなんかあげるわけ？

球太 そりゃあね。

由夏 えー、どんなものあげるの？ ノブさんに？

球太 や、だからまあ普通に、——ハムとか。

由夏 (驚いて) ハム？

球太 ま、ネクタイとかね。

由夏 ネクタイね。ノブさん、——そっだよね。スーツ。うん。

一拍。

由夏 え、球太はどんなのもらうの？

球太 スニーカー。

由夏 ああ、スニーカー。え、あとは？

球太 や、スニーカー。

由夏 ああ、なに、固定なんだ。スニーカー？

球太 まあ、そっだね。二十十年べらいは。

由夏 あ、そっ？ へえ。——え、じゃあさ、なに欲しいってスニーカーじゃないの？

球太 や、だからスニーカーの中で、どのスニーカーが欲しいの？ って。

由夏 ああ、なんか色々か。

球太 まあ、そっね。いや、スニーカーっていつでもピンキリだからさ、「コラボものとかで限定

販売のやつだとプレミアとか付いて十万なんて軽く超えるし、

由夏 ええ？ 十万？

球太 そっそっ。や、普通普通。

由夏 や、普通じゃないでしょ。え、じゃあ、今日履いてるやつも？

球太 あー、今日のは別に普通の、自分で買ったやつだけだ。

由夏 そっなんだ。

球太 まあ、そっという良いやつはあんま、ね。滅多に履くものじゃないから。

由夏 そうなの？ 意味わかんない。履かないでどっしりするの？

球太 や、履かないとは言っていないじゃん。でもまあ、ね。それなりの値段のやつとかは。まあ、兄貴からもうやつとかは結構良いやつ多いから、大事に取っといてる。

由夏 履かないのにな？

球太 まあ、わかんない人にはわかんないと思うけど。

由夏 ああ、そっか。良かったね、じゃあ、ノブさんはわかってくれる人で。

球太 いやいや、というかむしろ、兄貴の影響でスニーカー好きになったっていうかね＝

由夏 そうなんだ。

球太 Ⅱ最初はなんかあっちの趣味でくれてたから。なんかホラ、会社勤めになってからあんまりスニーカー履く機会ないからさ、俺の分まで履いてくれ、みたいな？

由夏 ふーん。——まあ、よくわかんないけど。めっちゃ仲良しだね。

球太 や、普通でしょ。

由夏 ええ？ だって大人だしね、贈らないでしょ、プレゼントなんか。

球太 大人だってそんな、お祝いぐらいいすめりしょ。って、え、それってさ、由夏が一人っ子だから。ピンと来ないだけじゃないの？

由夏 ああ、なにそれ？ 差別発言だ。

球太 いや、別にそつじつ、——ええ？ そっかな？

由夏 そうだよ。兄弟で贈り合ってるなんて珍しいと思うけどね。男同士だったら。なおさら。

球太 良いだろ、別に。

由夏 や、悪いとは言っていないけど、だから仲いいね、って。

球太 ★ていつか、ちよつとせつせつ、兄貴の話はやめなさい。——くだらない。

由夏 くだらなくないじゃん、別に。

球太 (少し強めに) いつから、やめなさい。

一拍。

由夏 ——じゅん。

球太 いろいろだけと別だ。なんか、——由夏が会ってる時はしたくないっていつかね、そういう話は。

問。

由夏 とうとうかさ、まあ、この流れでとうつのも嬉しいのかな、とも思うんだけど、いや、とも違うかなにか。いや、んー。

球太 ん？ なにない？

由夏 いや、んー。ちよつ、いや、別になるといつつの、あの、あー、なんだろう、ちよつと誤解しないで聞いてほしいんだけどね、

球太 うん。え？ なにない、誤解して？

由夏 ★ああ、なんかごめんごめん。なんか、結局めっちゃ勢いで言ったみたいになっちゃったけど、「これは別にそういうことじゃなくて、

球太 「いや、みたい、とかじゃなくて勢いじゃん。ただの勢いじゃん、今のは完全に＝

由夏 ＝完全ではない。どうするか、勢いではない。

球太 ★いやいやいやさ。

由夏 ★勢いではない。うん。勢いではない・勢いではないよ＝

球太 でも今のほ、

由夏 ＝ちよつとまあ、急な感じにはなっちゃったけど、まあ、うん、——そういう話をしようかなあ、どうしようかなあ、とは考えてたし、

球太 え、やっぱり勢いじゃん。だって、——考えてただけなのに言っちゃってるわけでしょ？

由夏 や、違う違う違う。そういうじゃなくて、

球太 ★そういうじゃなくないじゃん？ え？ だって、まだ考えてたんでしょ？ なに言っちゃってるの？ 「じゃ、考えてるだけと言っちゃうって、大分違うよ？」 「うんうん」の場合もね、大分、違うよ？

由夏 「じゃ、じゃあ、じゃあ、じゃあ、じゃあ、——うん。勢いで言った。勢いだ、ね。

一拍。

球太 ——そこを譲らわしめ。

由夏 勢いもある。けど、勢いだけではない＝

球太 そうなの？

由夏 ＝前からちよつと考えてたから。

球太 え、そうなの？ なに、別れようって前から考えてたの？

由夏 うん、ちよつと。

球太 ★なんで？ ——ええ、なんでー？

由夏 うーん。まあ、

間。

由夏 や、うんうん理由はあるんだけど。

球太 うんうんもあるんだ。——うんうんもある？＝

由夏 ＝や、まあ、ね。球太がその、何も理由がない、と思ってるんだしたら、それはそれでちよつと、ねえ？ どうなのか、みたいな気持ちもあるけど、

球太 (落ち込んでは) ああ、そういう、

由夏 ★でもでも、あー、そういう、えーとね、球太が問題、んー。なん、か、難しいけど、別に球太が問題というところではなくて、いや、まったく問題ないということでもないんだけど、そりゃまあ、人間、ね。完璧な人はいないから、それぞれ問題はあると思うんだけど、

球太 ★なに？ なにが問題なの？ 言っつてよ、直すから！

由夏　ちよっと自分の話になっちゃうんだけど、

球太　——うん。

由夏　まあ、やっぱりこう、ね。結構あたしってポンコツなところがあるっていうか、まあ、忘れっぽいところもそうだし、遅刻も多かったり＝

球太　（小声で）そんなのは、

由夏　＝や・なんかお田とか良へ割っちゃうし？　ああ、そう、ト///捨てるかいつもタイミング逃してさ、この時期とかよくコバエが飛びかったりして？　とか。そういう、もう女子力とか以前の問題で、まあ、それはそれでいいか、とか思ってきちゃったんだけど＝

球太　いいよ全然。

由夏　＝もう、もうだから、そういうのもなんか、んー。なんだろう。ようやくちょっと——あ、もっとちゃんとしたんだなあだし、って思えてきたのね、最近。

球太　うーん？

由夏　今まではなんか、まあ、その何が悪いの？　っていうかさ。まあ、そんな、ねえ。遅刻で死ぬわけじゃないし、別に良くねー？　みたいに思って。まあ、うん。あんまりそういう問題を問題だと思っただけだったっていうか、

球太　だってそんなこといちいち気にしてたら＝

由夏　そうそう。

球太　＝ねえ、疲れちゃうでしょ＝

由夏　＝疲れちゃうの。——まあ、ホントにそうなの。そういう、疲れちゃうな、っていうことで済ませて来ちゃったんだけど、一応まあ、ねえ。これでも**五年**社会人やってるわけだし。さ。

球太　うん。

一拍。

由夏　一応、後輩とかもできて、（私も）先輩というか？　そういう立場にもなってきたわけだ

球太　——偉いね＝

由夏　＝偉い、とかじゃなくて、まあ、いつまでも社会人一年生っていう感じじゃ、なんか、嫌だな、って自分で思ったっていうか。思えてきた、というね。そういうところがあって＝

球太　＝うんうん。ういじょいじゃね＝

由夏　＝そう、なの。だから、——ちゃんといろいろ意識してさ、最近はまあ、いろいろないと整理して、そう、部屋とかもいつも掃除してもすべ散らかしちゃうから、いろいろ余計なものもはちゃんど捨てる、

球太　ああ、なに、断捨離っていうか？

由夏　や、まあ、——断捨離、っていう言葉はあんまり好きじゃないけど、

球太　それで、まあ、ああ——、それっていい。——ああ。ああ。

由夏　あれ？　え？　なに？

球太 だからなに、その断捨離キャンペーンの一貫として？ 俺とのつきあひも一回いっ

由夏 ★や、そういう風に取りられちゃうと嫌だな、とは思っただけど、

球太 え、でも今、完全にそういう話だったんですが。「確実にそう言ってたんですが！

由夏 「ああ、まあ、まあ、そうだよね。そういう話になったからっちゃってたらいめんだけど、

球太 ★いや、なっただ。十分、なっただ気がするね。やり直したよ。いねはもうやり直しを要

求するね。ノーサイドー！ 今日はノーサイドー！

由夏 「ていつか、ていつか、球太もさー！

一拍。

球太 なに？ 俺が？

由夏 なんていつの、球太もその、成長していつてほしいな、っていつか思ってもいい。

球太 はあ？

由夏 ★や、そんな全然さ、なんかあたしがそんな、偉そうに言える立場じゃないのはわかって
るんだけど＝

球太 だよねだよね。

由夏 ＝まあ、でも、一緒に成長していきたいな、じゃないけど、あたしはそういう風に思っ
てきたからずっと、なんかお互い、——いい影響を与え合えたらいいな、って思ってきたから、

球太 あ、過去形？ ——すでに過去形なんですけど。

由夏 いや、過去形とかじゃなく＝

球太 ＝過去形だったから事実。それは事実。いめな。

由夏 いや、んー。なんだろうな、球太はなに、今の感じていつわけ？

球太 え？ は？ なに今の感じって？ ——今の感じ？

由夏 なんだろ。まあ、ね。なんていうか、音楽の活動も最近あんまり、ね＝

球太 ＝音楽？ なに急い？

由夏 まあ、思うよりもいつてないのかな、じゃないけど。それだから、え、どいついつて
いへのかな、みたいなの？ 今後。

一拍。

球太 は？ どいついつ？

由夏 いや、んー。まあホラ、仕事をね、していかなきゃいけないわけでしょ、だって？

球太 当たり前じゃん＝

由夏 うんうん。

球太 ＝え、え、なになにに、仕事してないみたいなの言っただけで、「まるで、あたかも、

由夏 「いやいや、そうは言っていないけど、

球太 ★え、言ってるし、そして全然してるし、仕事＝

由夏 や、それはだから、

球太 〓めちゃめちゃUber入ってるから。ホントもつ、ね。Uber、テレアポ、Uber、
——からのバーテン！ みたいな？ そんなばっかだから、近頃。

由夏 ★ああ、ごめんごめん。仕事してないとか、全然そんなことは思っていないけど、

球太 や、だって、してるしね、事実。仕事。「それは事実。」

由夏 「うんうん。知ってる知ってる。うん。だからそんな風には思っていないけど。」

球太 そりゃね。「だってそれが事実なのだから。」

由夏 「でもさ・でもさ、でも、ね、将来っていつかや＝

球太 〓将来？

由夏 ——なんだろう、今やってることも別に全然、悪くないと思うんだけど、まあ、あたしが
ね、自分がそついう、会社勤めしてるからそついう感覚になっちゃうのかもだけど、——やっぱり
りなんか、仕事、うーん、なんだろう、一生の仕事、じゃないけどさ、これだ、っていうなんか
を見つけていいのかな、っていつか、

球太 寿司職人になれってか？

由夏 え？

球太 寿司職人になれってか？ ああ？

一拍。

由夏 いや、——言っていない、かな、それは。

球太 手に職をつけるってことだし、要するに？ 寿司職人じゃん、要するに。

由夏 や、——その要し方はどうだろう。

球太 そついうことか？

由夏 ★違つ・違つ・違つ。手に職を、とかそんな（言っていないし）、まあ、別に／いや、いい
と思うけどね寿司職人も、別に反対はしないけどさ／や、そつじゃなくて。いずれにせよ、なん
ていつのかな、いろいろやってたじゃない？ 球太は。

球太 ——うんうん？

由夏 ホラ、だからあのー、——写真とかさ、デザインのお仕事とか＝

球太 〓ああ、

由夏 あとはまあ、音楽関係のことでもそつだし、いろいろとやりたいこととはさ、いっぱいある人
だから球太は、うん、だからそれはホント、すいになって思ってたし、ホント器用っていったら
違つのかもしいないけど、なんでも結構ね、短期間でスツとしまくなっちゃうし。

球太 ——まあ、でも、ね。

由夏 うん。

間。

球太 まあ、そうか。まあ、そうだよね。
由夏 うん。

球太 いや、由夏のがこう、ね。年上だしね。

由夏 なにが？ ん？ 年上？

球太 やあ、——うーん。ねえ。

由夏 なになに？

球太 まあ、いや、別れ話されたやつが言うことじゃないのかもしれないけどさ、まあ、ね。——結婚とかも視野に入れて考えた時にさ。こういう／＼まあ、ねえー。何してるかわかんないもんね、俺なんか、十年後。

間。

球太 そりゃね。——不安が残るといっつか。まあ、わかるよ。ていっつか、俺だって嫌だもんだって。俺が由夏の父親でさ、娘の相手が俺だったらちよっと、ねえ？ お引取り願えませんか、って感じになっちゃってもな。

由夏 ★そんなこと言わないってお父さんは。

球太 ★いや、たとえばね。たとえば。まあ、由夏の親父さんが事実、どう思ってるかは知らなかつたよ。

由夏 いや、褒めてたよ、普通に。

一拍。

球太 あ、そう？ ——え、褒めてたの？ 俺を？

由夏 うん。なんかホラ、あの一、食事行った時にさ、

球太 あの、ああ、あの時か、あの一、ね。中華行ったとき。「やたら山椒が効いてた、

由夏 「まあ、そう、そうだったかな。

球太 効いてた効いてた。もう、すごい効いてた。

由夏 まあ、お父さん、大体あそこだから。

球太 そうなんだ。

由夏 うん。だからあん時の印象は全然、うん、良かったよ。褒めてたし。

球太 え、え、なんて？ ——なんて褒めてたの？

由夏 ええ、んー、だからなに？＝

球太 〓そこ大事なことよ。

由夏 んー、恥ずかしいな、なんか。

球太 や、なにが恥ずかしいんだよ。言い給え。言ってくれ給え。

由夏 や、だから——。

球太 うん。

一拍。

由夏 あいつと結婚したらシムッとした子供がでまわったな。って。

球太 ——フフ。ああ、そう。

由夏 うん。

球太 見た目か。そこか、結局は。

由夏 ★いやいや、それだけじゃなくてー！＝

球太 そこなんだなー、結局は。

由夏 Ⅱなんか、それだけじゃなくて、生意気なところがいい、って。うん。言った。

球太 ——どういこと？ それ普通、欠点としてカウントされる部類の特徴ですけど？

由夏 ★だから、なんかいろいろ、ね。ホラ、音楽関係の・なに、先輩の話とかになったじゃん？

で、球太が結構、鋭いことも言ってたから。うん、——それじゃ。

一拍。

球太 なんだ。——なんか、あー、話がゴチャゴチャしてきちゃったけど＝

由夏 そうね・そうね。

球太 Ⅱえ、え、あれ、何の話だこれは。

由夏 や・だから、別れようっていう、——まあ、あれなんだけど。

間。

由夏 まあ、一旦、ね。お互い距離を置いて考えてみてもいい時期なのかなア、って。

間。

由夏 わかんないけどね、そんな、それがいいんだかどうかが。もう、全然あとになって後悔するのかもしれないけど、わかんないけどさ、だけど別にそんな、——ねえ？ もう一生会いませんとか、そういうわけじゃないからさ。——うん。なんていうか、たとえ、ね。どうい関係に今後なっていくんだとしてもさ、やっぱり、あたしにとってはすげえいい、特別な人っていうか、まあ、うん。滅多にない出会いだっただから。だから今後もまあ、なんだかんだで連絡は取り合おうのかな、って思っているけどさ、

球太 わー、なんか。えー、——リアル感出してきたね＝

由夏 え？ なに？

球太 Ⅱうわ、うーわー。——すげえなんか、ナイフで切り裂いた後でしっかり消毒が始まっているというか、ケア、ケアが始まっているのですがすげえいい。

由夏 ちょっとさあ、真面目に話してるだけじゃ＝

球太 ーえ、俺も真面目に話してるぞよすけじゅー。

由夏 え、なんぞさあ、そいつはいいじゃないの？

球太 や、俺がいついー。俺がいついすけすけさね。ー「なんぞそいつはいいじゃないの？」
日は誕生日なんだよすけじゅーー。

由夏 ーや、まあ。

球太 ★エンジニア。なんぞそいつはいいじゃないかなあ？ 俺、毎年誕生日の度に思う出すわけじゃない？
よ？ なんて人の誕生日をいついいついって塗り替えてやるものか？ その止みや
いかに。

由夏 まあ、ごめんそれは、悪いとは思ったんだけど、誕生日はだって、あたしも昨日だから、

球太 そこ全然違うじゃん？ 直撃喰らってるのと、ギリギリセーフは全然違うからー

由夏 や、ごめんじゅー。

球太 いや、もう、なんだろう。ーいや、全然わかるけど、言ってる意味は。うん。わかるけど、
むね、そいつの理由とかは。だけむねあ／ん？ なんだ？ ーんん、え、なに？ ー誰
か、できた？

由夏 できてないよ。は？ なんだ？

球太 それかなに？ え、ー誰かとヨリを戻した的な？

由夏 や、それは球太さあ／え、なんなのそれ？ 「どっこういう意味で言ってるの？

球太 「え、だっておかしくない？ おかしくないですかこんな急に、バースデーに？

由夏 ★なになに、誰かって誰のこと？ ねえ、どっこういう意味？

球太 ★なんで、じゃあなんで急にこんな話になってるんですか？

由夏 え、なんかすげえ、そいつの言われるとー。ええー。

間。

球太 や、なんか不自然でしよ、急い？

由夏 不自然じゃないよ、全へ。

球太 いや、絶対ヘンだって。急な話なのにめっちゃなんていうか、ー滑らかな傷跡で去って
いじりてくるのいつか？ べいから来るのだからか、この心の余裕。

由夏 余裕なんか無いよー！ あるわけ無いでしよ、あたしだってそんな

球太 と、と、いつね。と、と、いつ、必死感の演出。

一拍。

由夏 ない、じゃあ、むい言えむい言えわけ？

球太 や、知らんがな、そんなせま。

由夏 なん、関西弁？ あ、待って待ってー中ー

と、由夏、球太を叩く。ド、ド、ド、のようになぬ。

球太 あ、いてー！ いてー！ いてー！ ええー？
由夏 違う、虫、が。なんか、虫いない、この部屋？

球太 いや、居たとしても！ いや、居たとしてもさー！ 今は——虫は、良くない？

由夏 なんで？ ヤじゃん・だって刺されたら。あ、なんか、こないだ読んだ本に書いてあった
んだけぞ＝

球太 〓なんだよ？

由夏 蚊に刺されやすい人とそうじゃない人がいるっていうこととは別に、蚊に刺されてもあん
まりかゆくない人っていうのがいるんだって、遺伝子的に。——球太、それなの？＝

球太 〓知らない！ 知らないよ、そんな急に遺伝子の話されても知らない！

由夏 遺伝子っていうか、居たから、虫が。だから、——私は、虫がいたから、虫の話をしまし
た。

球太 んんー。こいしー。

由夏 わー。

ふたり、ちよつと笑つ。
間。

球太 ちよつと俺、風呂入っしんわ。

由夏 あ、あゆ、もう入ったかもね。

球太 鮎？ ——あゆっていつと、あの「おいしい淡水魚の？

由夏 「お湯。お湯！ お湯って言いましたちゃんど。

球太 言ってませんけどね。まあ、いいんですけどね。

球太、浴室へ向かう。由夏もそわねじ続へ。

球太 ん？ なになになに？

由夏 え？ なに？

球太 なんでついでに？ え？

由夏 や、だって。——え？ 入っちゃダメ？

球太 んん？ いや、え？ 一緒？

由夏 うん。——ダメ？

一拍。

球太 や、いいけど。え、「そっちが（いい、のかなあ、と思って。

由夏 「うん。もう、ずつと入りたかったから。気持ち悪い。もうせろほりしたい。いろいろな
んか、洗い流したい気分だから、う。

ふたり、浴室に向かう。

▲球太　なんか、すごいネガティブな意味を込めなかった今？

▲由夏　んー、なにが？　ネガティブ？

▲球太　え、ワザと言ってるよね？　今のはワザと言ってるでしょ？

▲由夏　なになに、止めて止めて。そっすいっ、あらぬ疑いは。

ふたり、舞台外でじゃれている雰囲気。ふたりの声はやがて聞こえなくなる。

一場 茉莉と聡信

一組の男女（茉莉と郷信）が部屋に入ってくる。

聡信 あー、ようやく座れたわ。ああ、酔った。——飲みすぎたな、ちょっと。
茉莉 ずっと立ちっぱなしだったんですか？
聡信 うん。——や、今日はなんか珍しくあちこち行かされてわ。
茉莉 ああ、そうなんですか。
聡信 うん。挨拶回りわ。

一拍。

茉莉 確かに珍しいですね＝
聡信 ともうヘトヘトだよ。——足がヨレヨレになっちゃった。
茉莉 フフ。営業さんじゃなくて良かったですね。いつも歩きっぱなしなんだから＝
聡信 なあ。向いてねえのよ俺は、そういうのは。
茉莉 でもたまには動かないわ。
聡信 ★いや、動いてる動いてる。ジムも行ってるし、——フィットサルだってやってんだしき。

間。

茉莉 本日はお忙しい中ありがとうございます＝
聡信 しいやいや、よっつよっつな、堅苦しい。
茉莉 いや、でもちゃんとお礼いっておかないと。——お疲れのところわざわざ、
聡信 ★そりゃねえ。店長一押しのお若手がデビューするっていつんだから、見逃すわけにいかないわよ。
うんっよっ。

茉莉 今日は緊張しちゃってましたけどね。でも、モノはいいんですよ、あの子。
聡信 ね。そんな感じしたね。うん。——だって初舞台でしょ？ 大したもんだよ。
茉莉 リハの時はもっと伸び伸びしてたんですけどね＝

聡信 二やあ、キレもあったしさ＝
茉莉 二まあ、あの子は、バレエから入ってる子だから。
聡信 あ、そう？ ——じゃ基礎が違っただね、やっばり。
茉莉 まあ、何やってたってダメな子はダメなんですけどね＝

聡信 二うん。——いいダンサーになるんじゃない？ ん、ダンサー、じゃないのか、バレエス
クの場合は＝

茉莉 二いや、言いますよ全然。——バレエスク・ダンサー、とか。
聡信 じゃあ、またね。——こなれて来た頃に偵察に行かないと。

茉莉 ええ、せひ。

一拍。

聡信 なに？ 今日はまだ髄分かつちりしゃべるじゃない？

茉莉 そう？ 普通ですよ＝

聡信 ＝いつもタメ口だろー？

茉莉 —ノブさん酔ってる時は、こっちがしゃんとしておかないと＝

聡信 ＝そんなに酔ってねえよ、別に。

茉莉 ええ。

間。

茉莉 今日はなにかあったんですか？

聡信 —え？ なにか？＝

茉莉 ＝や、そんなあちこち歩いたって言うから＝

聡信 ＝ああ、—まあまああ、あったあった。

茉莉 ふーん。

間。

茉莉 どうかしたんですか？

聡信 やあ、まあ、ちょっとさ、なんだろう。んー、急な話なんだけどな。

茉莉 はい。

聡信 —転勤が決まってる。海外。

茉莉 あ・へー？ —あ、海外＝

聡信 ＝そうそう＝

茉莉 ＝ええー。ああ、そう。

聡信 うん。

茉莉 海外って、え、—どちらへ？

聡信 香港。

茉莉 香港！

聡信 うん。

茉莉 (驚いて) ああ、そう？ えー。そうなんだ。—あ、そうなんだ？

聡信 そうだよ。(笑って) なんだよ。

茉莉 いや、そっかあ、と思って。今なんか、すごい大変な感じになっちゃってますよねえ？

聡信 。

＝ねえ。—どなたもねえですっていらひかり。

聡信　いつまで、とかがって決まってるわけじゃないんだからさ。なに、水が合ってたら長期になんのかもしいし、まあ、すぐに帰って来いって話になんのかもしいし＝

茉莉　うんうん。

聡信　＝だから一応、行く前にね、挨拶しとかないよ、ってわけさ。もう、あれだよ。後輩引き連れて引き継ぎも兼ねたって、ってことね＝

茉莉　＝ああ、そっか・そっか。——引き継ぎ、そっですよね。

間。

茉莉　じゃあ、あの一、今日のこれも、ねえ、挨拶回りの一貫とっつか？

聡信　え、なに、これっつ？

一拍。

茉莉　いや、あたしこの、その、

聡信　★いや、違う違う＝

茉莉　★まあまあ、全然、いいんですけどね、むしろお気遣いいただいて、とうっか＝
聡信　違う、そうじゃなく、

茉莉　＝挨拶がね、無いよりは別に、合ったほうがいいです＝

聡信　＝やあ、そうじゃなくさ、なんつうんだ＝

茉莉　＝えー、でも、急ですねホント。

聡信　——ま・そりゃそう思うよな。——いつ帰って来るかわかんないっていったらな。

間。

聡信　え、ちよっつさ、いきなり真面目な話してもいい？

茉莉　——どうせ。

一拍。

聡信　あーのさ、来ない？　香港？

茉莉　——ん？　え？

聡信　いや、だから。茉莉がさ。——あの、俺と一緒に。

間。

聡信　行かない？　香港？

茉莉　ちよちよちよ、「なになになに？？」

聡信 順序立って無かった？＝
茉莉 〓え、まずその、奥さんと別れるっていつのは＝
聡信 うん。

茉莉 〓え、それはなに、——本気でいってるんだ、ですか？
聡信 ホンキだって。——え、なんで信じないの？

茉莉 だって、ええ、（そちらにも事情があるじゃないですか、なんかいろいろ。
なにになに？ なにかあるの？

茉莉 ——え、だってお子さんが＝
聡信 〓あめ。

茉莉 ——え、え、お子さんの学校があるからその、奥さんは、お子さんと一緒に残って？
づさんがその、単身赴任する、とかかっていう「話じゃないんですか？」

聡信 「違っ違っ違っ。うん。うん。うん。うん。うん。」

一拍。

茉莉 ああ、違うんだ。

聡信 うん。違う。

一拍。

茉莉 （徐々に聡信の方に歩み寄りつつ）え、で、なん、ですか？ 一緒に行く？ あたしが？

聡信 うん。

一拍。

聡信 ——ていうね、お誘いをしてるんだけどさ、——どう？

茉莉 どうって言われてもそんな、えー、だって、香港でしょ？＝

聡信 そう。

茉莉 〓え、だって全然、ええ、なに？ 話せないよそんな、中国語とか。

聡信 や、俺だって話せないよ。ま、大丈夫だって英語があれば。

茉莉 ああ、そっか英語がね。 「英語があれば。」

聡信 「そうそうそう。——大丈夫・大丈夫。」

茉莉 ★いやいやいや、全然、英語も話せないから、あたし。全然できないし、中国語と一緒にべ

らう英語できないし＝

聡信 〓そんなことはないって。英語はなんだかんだで片言べらいはできるから、

茉莉 ★や、できないしできない。

聡信 なんじかなもっつ＝

茉莉 ≡ならないとっしょ。

聡信 なるなるなる。え、なに？——そんなこと心配してるの。

茉莉 ★待って待って待って、あの一、一気に入るんならとていつからなの。ちよっ、ええ、追いつけない。なんだっね。わー。

間。

茉莉 なに、え、なん、んー。なんだらう。え？

聡信 なんだよ？

茉莉 そのさ、あたしが一緒に行くってことなのね、うん。

茉莉 え、なに、そうさう、ん？。よしよし。

聡信 どうしてだから、——（笑）あ、だから、

茉莉 ——うん。

聡信 もう俺は離婚するから≡

茉莉 ≡うん。

聡信 ——結婚してっしょ。——っつう。

茉莉 ——あたしっ？

聡信 そう。——そりゃそっつう（笑）

間。

茉莉 ああ、——ああ、——ああ。

一拍。

茉莉 うーん。なんだらう。追いつけなこれ≡

聡信 ≡（笑って）まだ追いつけなっ？

間。

聡信 なになに、どうしたの？

茉莉 ★いやいやいや、どうもってなってますけど。普通に、戸惑っでしょ、そんな。

聡信 や、言っただけでしょ、だからっ？

茉莉 え、んー。言っただけじゃね。

聡信 ——なに？

茉莉 うーん。なんか、ホンキにならなそうですよ、普通。そんなじ。

聡信 ——なんでっ？

茉莉 なんて、こつこつも無いとすけむ。ええ？。だって、——あるあるじゃなからすか、そう
いう、なに、——不倫してる時にもう、ね。すべ別れるから、——みたいな感じの？。ど、言っ
る割に実際は全然別れない、みたいな？。

聡信 いや、わかんねーけど俺は。——え、あるあるなの、それが？。＝
茉莉 なんか、そうじゃないですかね、だって。

聡信 ★や、別にそんな、——え？。なんかそういふ風に言われちゃうとね。——なに？。そう
いう、俺がその、茉莉を騙してたっていうか、——なんつう風に「細」してたわけ？。

茉莉 「そうじゃない、そうじゃない」＝
聡信 そういふことになったじゃないか。

茉莉 〓とすけむ、や、そういふじゃなくたって、さ、さ、さ。——え、なにと、そういふ
言ひ方するか＝

聡信 〓なにになに。

茉莉 や、うーん。ちよつと待って待ってなに。あたしにせよ、なにをいふとすか、今の生活
こつこつのが、こつこつありまわつ。

聡信 そりゃそうね。ていうか、——わかってるよ、それは＝

茉莉 〓や、わかってませぬよ、全然＝

聡信 〓そんなこと無いって。だから、悪いと思ってるの、急ぐ。——「じめね、つ。と。せ、
——しょうがないだろ？。急に決まったんだから。香港。

茉莉 まあ、そんなとでしよつとけむね。んー、違うな。ちよつとあたしの、なに？。きえる、ス
ペースが欲しい＝

聡信 〓スペース＝

茉莉 〓スペースっていうか、——タイム。タイム＝

聡信 〓タイム。タイムね。い、よ、タイム取って。

間。

聡信 いや、俺の言い方も悪いよな。

茉莉 うん、急ぎやい。

聡信 まあ、そうだよな。だから、——うん。悪いとは思ってんのよ。その、ね。茉莉にだって
お店のこともあるし、すつと頑張ってるやつきたのも見るわけだしや。

茉莉 うん。

聡信 だから、お金の心配とかをさせぬつもりは無い。——俺なりにちやんと、——まあ、離
婚してこつこつなるとかしてこつこつもちやんと田畑つけて——子供の養育費とかさ。それでまあ、改
めてちゃんとして、うーん。なんだ。——は、は、なんだら、う、もつ若くないからさ、俺だって。

茉莉 ええ？。＝

聡信 〓や、そういう、ね。若くないんだし。なんか、——ちゃんと選びたいじゃない？。一緒
こつこつ入は。

一拍。

聡信　だから、茉莉に。

一拍。

聡信　まあ、そんな、——うん。まだ離婚もちゃんと成立してない人間が言うことじゃないのかもしれないけど、まあでも、それはひとまずは置いておいて、——うん。だから結婚してほしいな、ってどう。うん。結婚、——して、くねませんかね？

長い間。

茉莉　無理。かな。結論から言っちゃって、

一拍。

聡信　ああ、そう。

茉莉　うん。

一拍。

茉莉　や、じゅんなんぞ、「なにか」。

聡信　「え、それは、えーとなに、ど、ど、どうして？——とか、聞いてもいいの？」
茉莉　＝どうですか。うーん。そりゃ、もちろんだね。

間。

茉莉　難しい。

聡信　なんで？——なにが難しいの？

茉莉　いや、言葉にするのが。

聡信　ああ、ああ、そういう——。結婚が、ってどういじやなくて。

茉莉　★ああ、そういう。や、結婚も、難しいんですけど。

聡信　おお、そっかそっか。

一拍。

茉莉　確かにね＝

聡信　＝うん。

茉莉 —— ノブさんはさういうふうね。奥さんと別れるより、とか。いしかさういうふうね。結婚しようね、みたいなの？ まあ、さういう言葉ではなかったけど、さういう意味のことを言ってくれているのかなあ？ みたいなね。じつはあつたじ、

聡信 うんうん。

茉莉 それは別に、あたしもうれしかったし——。「ああ、なんか大切にされてるのかなあ」「みたいなことはホントに思ってたし、なんか、ね。お店の立ち上げの時とかもホントにそれはもう、すばらしいお世話になっちゃってまじったじ＝

聡信 いやいや別じ。

茉莉 ㊦うん、だげじ・だげじ・だげじ、

聡信 うん。

一拍。

茉莉 あんまごめん、うーん。正直ちゃんとさういうふう、ホンキでノブさんと結婚するかもなとか考えたこと無かったから、

聡信 ええ、何回もいつたのじ？

茉莉 いや、だって——ノブさん結婚してるとよ。

間。

聡信 ——そうか。

茉莉 いや、じめなめら、ななか。

聡信 ★いやいやいや。

一拍。

茉莉 でも、まあ、ね。また昔の話になっちゃうけど、やっぱ一回諦めちゃっているからさ、あの時じ。

聡信 え、あの時じじ？

茉莉 いや、え？ ウンでしよ、言わせるの？ あたじじ？

聡信 ★いやいやいや、さういうわけじゃないけれど——え、何の話なのかな、じじ。「あの時？」

茉莉 「まださういうじじい言ってた。ええ？」

聡信 ★いやいやいや、

一拍。

茉莉 謝ってくれたでしよあん時！ え、じゃあ、あれは何？ その場を取り繕ったためのウソださうじじいじじ？

聡信 ★いや、違う、だから、誤解しちゃいけないと聞いて、——いや、わかっているけれど、
茉莉 ★というかさ、今日もあたしはずっとね、もう、お店でも、ふたりになっただけだからもうずっと待
つてたよ。

聡信 ——待ってた？

茉莉 「さう言っているのかな？・・・さう言っているのかな？・まさか忘れてはいないよね」「
さう。——もう、さ。はじまりはしたけれど、え、ぶっちゃけ忘れてるでしょ？」今日が、何の日
か。

間。

聡信 や、えーと、

茉莉 ホー！ やっほー！

聡信 ★いや、覚えてる、覚えてる！ えーとだから、あれでしょ？ 誕生日とかじゃなくて、
その、——あー、ふ、ふたりの、大切な、ね。あー、初めての、なんか。

茉莉 ★全然違う！ 全然！

聡信 ★ああ、違うね、さうだよ、さうだ、えーと。や、なんだ、初、初、なんだ、

茉莉 ★忘れてるじゃん！

聡信 いや、忘れてはいないんだけど、——あれ、えー、いや、忘れ、正直、いや、ど忘れした
つもりが＝

茉莉 ＝出た。——出ました。

聡信 ★いや、ごめん、あれ、今日でしょ？ 今日？ だからえーと、今日はだから、あー、
茉莉 三回忌！

一拍。

聡信 ——さ、三回忌？＝

茉莉 ＝さう！

間。

茉莉 ガロンちゃんの日三回忌でしょ！

聡信 あ、ああ！ ああ！ ガロンちゃんの日。——あー。え、「三回忌」？

茉莉 さう！ ガロンちゃんが倒れて！ そんで、あたしはステージがあっ、ってあん時から
今日でちょうど二年でしょ！

聡信 ああ、さうか・さうか・さうか・さうか。ああ、さういう、——ああ、いや、三回忌とか
あるんだね、猫にも、——ね？＝

茉莉 ＝当たりの前でしょ！

聡信 いや、あー、ね。それは、——おー、さうか＝

茉莉 ≪なに？——猫だからなに？≫

聡信 ★いやいやいや、猫だからなに、とかじゃないんだけど≪

茉莉 ≪ええ、そのやんぷさんってのはただの猫一匹だったんでしょうけど、んー／＼（独り言）え、ちよつと待って、ちよつと待って、——（ノブに）なんでこの話をそんな軽く受け止めるの？≫

聡信 ★いや、そんなじやない、そんなじやないよー≪

茉莉 ≪あゝでしょー！ そんなじやない！≫

聡信 ≪違う、あれはだから、≫

茉莉 ★あんなに謝ってたくせい！

聡信 違う、悪いとは思ってると、もちろんだ、ま、あれはだから、子供が、熱、出てたから、それで——。

間。

茉莉 いや、こつこつちや何だけども——お子さんはだって、風邪でしょ？ ただの？

聡信 や、そつはこつこつちや、

茉莉 ★悪いけど、ガロンちゃんは死んだの。あれで。

間。

聡信 だから悪かったよ。——ただ俺も、まさか死んじゃうとは思わなかったし、あん時、できるだけのこつこつちや、それで、いや、子供も熱があったから、放っておくわけにもいかなかつたし≪

茉莉 ≪奥さんがちよつと旅行に行つてらしたからね。≫

聡信 ——まあ、

一拍。

茉莉 うつないと思つたのよ。——もう一回もした。何回もした。この話は。この話はもう一回もした。

間。

茉莉 ——や、うん。あれは、まあね。あの時はあたしもホントに、もう、それはムカついてたし。怒つてたし。悲しんでたし。いや、まあ、今でも恨んでないって言つたらウソになつちゃうけど、でも——帰つてこないわけだからね、もう、ガロンちゃんは。

一拍。

聡信 ——う、うん。そう、——ね。

茉莉 まあ、でも、ね。——ガロンちゃんも十四歳だったし？ どの道、長くはなかったのかな、とかさ。別に全部ノブさんのせいにするのもそれは違うかな、とかさ、——思った。それに、何よりステージを休まなかったのは私だしね／＼そうそうそう。——一番残酷なことをしたのは、あたしなんだから結局は。それを、——他人を責めちゃいけないな、と思っただよ。そう。そう思っただよ。

間。

茉莉 まあ、でも。——諦めたよね。だから、あの時。——いや、そりゃそうだよな、うん。諦めたよ。——まあねえ、あたしだって別に世界中の猫が病気になるってたらすべに飛んでくか、っていつたらそんなことはないし。毎日保健所で猫ちゃんが殺されてるって知ってても何もしてないわけだし、そわそわして思ってる／＼いや、良くはないけど、良くはないから、まあ、しょうがないのかなとは思っちゃってるよ。だって、——すべての猫ちゃんを助けることは出来ないんだし、誰だって、いつかは寿命が来るんだし、それはだって、避けられないことなんだからね。

聡信 でも、まあね、——ショックだったんだよね。

茉莉 ショックだったよ！ そりゃ！ だってノブさんから、「なんか落ち着いてきたから帰るねー」みたいな連絡受けてさ、「ああ、そうなんだ」と思ってあたしもちょっと安心して家に帰ってきたら、もう冷たくなってたんだからさ、そりゃ、ショック受けるに決まってるでしょー！

聡信 ★いや、それは悪かったってだから。

茉莉 ——え、なんなの？

聡信 え？ なにが？

茉莉 え、なに、謝り疲れみたいになってるの？

聡信 ★いやいや、そんなことはないって！ 思ってるよ、悪かったなあ、って。心から。

茉莉 ★所詮その程度のことなんだよ、ノブさんにとっちは。——当たり前！ ねえ？ 自分の子供が熱出してるのに、愛人の猫の面倒見たら、——ねえ？ そっちのが精神異常だよ。そりゃそうだよ。

聡信 ★そんなことはないっし。

茉莉 でも、あたしにとっちは大切な家族だったの。

聡信 うん。——いや、わかるよ。俺にとっちもそうだったし。

茉莉 そんなじつは無い。さ、そいつらに「お前は言わなごえ」

聡信 ——いや——。

間。

茉莉 —— 私には私の家族がいて、どうしてでも守らなきゃいけない大切な存在っていうのがあって、もちろん、あなたにもそれがある。

一拍。

茉莉 で、あたしのと、あなたのは、違う。——そう。そういってだから。それはもう、あの時にそれがわかってからはずっと、割り切ってるから。

間。

聡信 そういって、じゃあ、そのあとはその、——酷いやつだな、と思ってつきあってきた、っていって＝

茉莉 ＝いや、ノブさんは優しい人だと思っよ。

聡信 あ、そうなの？——いや、それ。

茉莉 ★違うの違うの。別にあの時のことでノブさんの人格をどういって気はないの、そりゃ、言ったこともある。——さういって酷いことも言った、あたしは。だけど、それはホント、ずっとずっときえて、ノブさんが悪いんじゃない、もう、単にタイピングが悪かっただけだし、あたしが悪かっただけだし、それで、——ただ、単に、大切なものが違うんだな、っていう、それだけ。

間。

聡信 じゃあ、もうあれか。うん。

茉莉 ——なに？

一拍。

聡信 整理した方がいいのかな？

茉莉 ——ん？ 整理？

聡信 だからその、こういふんだ、関係自体を。

茉莉 ああ、香港いっちゃって？

聡信 そう、うん。——会えなくなるしね。

茉莉 え、でも、そんな。え？ そんな遠くないでしょ、香港。

聡信 まあ、ガーナよりは近いけど。【でもまあ、

茉莉 【でしょ？ ですよ、え、なんでガーナ＝

聡信 ＝いや、なんとなく。

茉莉 ああ——。で別にさ、行ったら行ったっきりってわけでもないんですけど、

聡信 まあ、何年かしたら本社に呼び戻されるかもしれないし、【って、多分そうだけ、

茉莉 「や、違う違う、そのしつじやなくして、何年、とかじゃなくたって別に、香港の間だ
って、ねえ。ちよくちよく帰っては来られるわけでしょ？ 休みだあってあるんだし＝
聡信 　＝まあ、そりゃ休みはあるけど。

間。

茉莉 　だったら、ね。

聡信 　や、んー。ん？

茉莉 　なに？

聡信 　ん？ なんだろっ、あのー、あれ、なんか、あんまり会わない方が良いのかな、と思った
んだけど、

茉莉 　なんで？

聡信 　いや、なんでっっていうか、——あれ？ え、なんだろっ。——茉莉の方が結構、困っちゃ
うのかなあ、っと思っっ。

茉莉 　なんで困るの？ あたしが？

聡信 　——あ、困らない？

茉莉 　困らない。っっていうか、助かる＝

聡信 　＝助かるっ？＝

茉莉 　＝助かる？ ——助かるじゃないか、心強い。——違うな。んー。会えた方があたしがな
んだ、
(無言で上がるようなジェスチャー)

聡信 　ああ、ああ、ああ。

一拍。

聡信 　会いに来ていいんだ？

茉莉 　うん。ノブさんが良ければね。

聡信 　——なんで？

茉莉 　え？ なんでっ、え、——なんだ、言わせんなよ＝

聡信 　＝ええ？＝

茉莉 　＝だから、そりゃ、会いたいわと思っってるよっ。——会いたくなかったら今日だってこ
んなところ来てないし。あたしだって壁までたわけだから、そのしつじやなくして、お付
き合っが続くしつじやなくして、お付

聡信 　うん。——え、じゃあ、一緒に行けばいいんじゃない？

茉莉 　★や、それは無理。

聡信 　おお。——早くない？

茉莉 　いや、だって無理だから。

聡信 　あ、そう。——香港？

茉莉 　香港。

茉莉 はい。——まあ、そこですよね。

間。

茉莉 すみません、私はちよつと。

聡信 ★悪かった、悪かったよ、急にそんな。急がせるみたいなき感じになっちゃったけどでも、——急いで結論出してほしいなとて思ってるわけじゃないからと＝

茉莉 〓や、うん。大丈夫です、そんな、あたしも、——悪く思ってるわけじゃないです、びびりしちゃって、って言うだけで、いや、全然そんな嬉しかったです、はぐ。

間。

聡信 ハハハ。あ、そう？

一拍。

聡信 わかったわかった。じゃあ、もう、帰ろう。——か＝

茉莉 〓はい。

聡信 うん。——あの一、帰るからさ、ちょっとだけ休ませて。一呼吸、一呼吸。

茉莉 いや、あたしはもう、いや、大丈夫です、一人で行けますから、

聡信 ★ちよちよちよ、ええ？ なんて？ いいじゃない、そんな。もう、さ。会えないかもしれないんだから。

一拍。

茉莉 え、会えないんですか？

聡信 かもしれないじゃないって。

茉莉 嫌です、それは。

間。

聡信 難しいこと言うねえ。

一拍。

聡信 ままならねえ、お互い。

間。

聡信　じゃ、帰るか？　なんか、このままここに居たら、バカなことばっかり言っちゃいそうだから。

茉莉　はい。――すみません、なんか。

聡信　★いいの、いいの。謝らなきゃいけないのはこっちの方だろうしね。

茉莉　じゃあ、あの、五分、十分だけ――。

一拍。

聡信　ん？　ああ、そう。――うん、じゃあ。

ふたり、座る。

聡信、大きく息をつく。

場面転換。

三場 由夏と球太 その2

再び、由夏と球太の部屋。

事後。二人ともほとんど服を着ていない。

球太はベッドではなく、椅子に座って本を読んでいる。本はまだ序盤である。

由夏はベッドに寝そべっている。

由夏 なーんか、変な場所だよね。

球太 んん？

由夏 じつじつじつじつ。なんかへんだと思わな？

球太 へー。そうね。

由夏 なんか普通さ、山とかだったらさ、ただ山じゃん？ 意味なく。ただ、ただ、山じゃん？

球太 そうだね。

由夏 山に畑とか作ってあったとしても、山めりきとらうか？ 山は畑になるために山になった

んじゃないよ、みたいな？

球太 うーん。ん？ じつじつじつじつ？

由夏 なんか、じつじつじつじつね。逆じゃね？

球太 逆？

由夏 部屋があって、なんか部屋で出来ることをしました、っていうんじゃないてさ、なんかや

りたいこのために部屋を作っちゃいました、みたいな？

球太 ああ、——まあ、そうかもね。

由夏 ねえ。だからなんか落ち着かないのかな。

球太 えー、でもさ、そんなじつじつたじつじつじつじつじゃん＝

由夏 っ＝いっ＝

球太 ——カラオケとかだっけそうだし、まあ、ゴリヤード場とかさ。バッティングセンターと

か。

由夏 そっかそっか。——そうだね。うん。——あ、確かにね。

一拍。

球太 なに、——落ち着かないの？

由夏 うん。誰かの、頭の中じつじつみたい。

一拍。

球太 ——由夏、由夏。

由夏 んん？

球太　　ここは、誰かの頭の中じゃない。
由夏　　(相手にされて嬉しい) またそうやってバカにしてー。
球太　　してない・してない。

球太、飲み物、あるいはタバコなどのみながら本格的に読書している。
間。

由夏　　(退屈そうに) ねえー。球太、ねえー。

球太　　なになに？

由夏　　何読んでるの？

球太　　え、黙示録論。

由夏　　なにそれ？ モクシロク？ キリスト教？

球太　　や、そういつわけじゃないんだけど、

由夏　　なに、誰の本？

球太　　え、ロレンス。

由夏　　ふーん。——アラビアの？

球太　　アラビアのじゃねえ。違う違う。『チャタレイ夫人』の方の。

由夏　　(理解できないが) ああ——。そっち系ね。そっち系ロレンスね。

球太　　そうそう。——そっち系ロレンスだよ。うん。どっち系だよ。

間。

由夏　　ねえでもさー。結局、お風呂でしちゃったら意味ないんじゃない？

球太　　んん？　なにが？

由夏　　え、なんか結局お風呂でしちゃったじゃん、今日。

球太　　ああ、悪い？

由夏　　や、悪くないけど。なんか、せっかくさー、しっぽとかつけたのに＝

球太　　＝ああ、そうね。

一拍。

由夏、球太の方に近づいて彼に触れる。

由夏　　もつての他だよ。

球太　　なに——。

由夏　　もつての他だぞー！

球太　　まあ、そうなのかもね、その道の人に言わせたら。

由夏　　なつてないぞ。

球太 ごめんごめん。や、だつて、なんていうの、結局全裸っていうのが一番ケモノなんじゃないか、っていうさ、そこに気づいたじゃないかね＝

由夏 〓え、じゃあ、もうこの？ 着るみしなごで？

球太 着るみしなごじゃないよ、今日だつて＝

由夏 〓まあ、そうだけさ。

球太 着るみしなごならせめて顔は覆ってなごわ。

由夏 それはなに？ どうやってエッチすんの？

球太 や、まあ、するんだよ。ていうか、え、お？

由夏 〓ん、なに？

球太 あれ、なんかなごなへさ、流れちゃってるけど、さうの？ じつは感じさう感じなの？

一拍。

由夏 なにが？

球太 や、あのー、だからおっきい話。

由夏 ああ。別れ話？

球太 うん。まあ、――そう。

由夏 え、球太はどうしたいわけ？

球太 〓やあ、だからさっき言ったでしょ。

問。

由夏、何かいいかけるがそれを止めて、また考えて、

由夏 面白いの？ (本を指し) それ？

球太 んん？ まあ、あんまり面白いのかってタイプの本じゃないけど。

由夏 モクシロクについて書いてあるわけ？

球太 まあ、そう。『黙示録論』だからね。あー、だからサブタイトルがあるよ。

由夏 なに？

球太 「現代人は愛しうるか？」

由夏 ふーん。――ちよつと面白いし＝

球太 〓でしょ？＝

由夏 〓え、それでなに、現代人は愛しうるの？

球太 や、わかんないよ。まだ読んでる最中だから、

由夏 え、概ね。――概ねどつどつ感じの話なの？

球太 や、だから、概ね、

由夏 〓うん。

球太 まあ、愛しえないね、無理だね、――みたいな？

由夏 —あ、そう＝

球太 うん。

由夏 〓えー、愛しないの？ 愛し合えないんだ、私たち？

球太 まあ、うん。この本ではね、今のところそんな感じ＝

由夏 〓なんでー？

球太 ★じゃ、読めよ。——まだ途中だっついでしょ。

由夏 そりゃスルスル読めたら苦労はいらないけどなあ。

球太 まあ、俺が読めるんだから読めるんじゃないの？ 由夏のが難しそうなお本読んでるじゃん、
いっしょ。

由夏 まあ、ハマっちゃえばね。割じけぬだけよ。

球太 ハマっちゃえばね。うん。

間。

由夏 誰のおすすめなの？

球太 え？ 誰の？ なんで？

由夏 や、なんでっついでっついでじゃないけど。——誰かのおすすめなのかな、って。

球太 別に。——自分で探してきたんだけど。

由夏 ふーん。そう。

一拍。

球太 なに、それ？ え、どうして？

由夏 え？ なんでもないよ別に。

球太 え、また誰かの影響受けたいの？ じゃなく、って、どうして？

由夏 言っていない・言っていない。

球太 まあ、ケモノ趣味もそうだしな。うん。

間。

球太 どうせ、続かねえんだよ、なんで。

球太、本を置いてベッドに身を投げ出す。

由夏 そんな意味じゃなくっついで。

間。

球太 本気だったんでしょ？ やっせいの。

一拍。

球太 ねえ、本気で言ってたんでしょ？

一拍。

球太 そんなじゃ、別れる？

一拍。

由夏 まあ、最後に一発やったしね。

球太 (本気で怒って)は？ そんな意味でいったんじゃねえよ！ なんだよ、それ！

由夏 いや、冗談じゃな。

球太 ★なんだよその言い方はよー！

由夏 ちよ、え？ 「じゅめとじゅめと。

球太 「なんなんだよ、こっちが真剣に聞いてんの、じゃ？」「それは、酷くないちよって？

由夏 「[や、「じゅめとじゅめとじゅめと。深い意味ないから。だからさっしもの、思ったことばっか言っ

ちやうやっただけだから。

球太 や、や、びっぴつかと想いよすすが。「。今のほちよとや、ええ？」言っさる事と悪い事がある

てっよ。

由夏 なんかさっししね。

間。

由夏 私なりにちよとは考えてるつもりなんだけどね。だから、ごめんね。

球太 ——謝りゃ済むって思ってたじゃねえよ。

間。

由夏 さっきさあ、お風呂入ってからにっ、って、言ったじゃん？

球太 ああ。

由夏 なんてお風呂入ってからの話なの？

球太 ん？ は？ ——だからお前がさっし、

由夏 ★え、なに言っしと聞いちゃっしなの？

球太 ——「じゅめと、な、え？

由夏 うーん。そっししなただよ＝

球太 二つ二つとこなだよ。

問。

由夏 今までいろんな男の人にさ、あたしだから、たまにちやほやされてきたよ。や、もちろんそんな、あたしなんかは全然、クラスで一番の女子！とか、高嶺の花！とか、そんなモテ方は一回もしたことないけれど、ってまあ、そんなの当たり前だけども、でも、そうじゃなくて、そういうんじゃないかな、——たまにいるじゃん？「一番モテている女子に声をかけるほどの勇氣は無いけれど、でも、そいそいモテてっ。そいそいかわいいう女の子と付き合いたいなー、みたいな人？」

球太 なんの話？

由夏 とかさ、なんか、そういう風な人にモテてきた。でね、わかったんだけどね、あたし、そういうんじゃないかなだよね。なんかさ、——そういう人たちって最初はちょっと「上から」みたいにしてるけどさ、結局、あたしの顔伺って。なんかそのうち大事にしてくれるし。この間にか大事にされてるし。

球太 ——そのなごが悪いの？

由夏 だって。——この間にかあたしがその人振り回しているみたいになっちゃって。だから、そういうんじゃないんだって。そういうんじゃないかって、もっと、あたしをちゃんと振り回してくれる人に出会いたくて、あたしは。

球太 ——はあ。

由夏 もう、結構好きになつたら尻尾くすタイプだからさ、全然もう、なんでもしてあげたいのね。全然いいの。なにされても。なに望まれても。むしろ相手がわがママをいってへれて、それをあたしが叶えてあげられるんだつたら何はもってあげたい、って思ってるから。

球太 ふうん。

由夏 髪型なんかいろいろもってこいって、痩せろって言われたらめっちゃがんばって痩せるし、太れって言われたら、すげえプロにだってなるし。ていうか、すげえ暴飲暴食とかして実際なつたしね。けどさ、もう、お願いだからあたしに振り回されたいの。なんであたしの希望を聞いているの？。っ。っ。そんなの全然、あたしの希望じゃないから。

問。

球太 じゃあ、なに？。えっ、えっ、お風呂なんか入らないでそのままやればよかったっかい？。

由夏 それが球太の望みならね。でも、——球太別に好きじゃないでしょ、ま、そういうの？。ホンナ。

球太 ——何が？

由夏 え、ああいう格好も。汗の臭いとかも。——好きじゃないでしょ？。

球太 二や、二や、そんないふ無いけど。——え？。まあ、好き、好きだけ？。

由夏 　＝ウソだよ。——もっとちゃんと追い込んでほしい。なんだしたら俺のために死んでくれとかって言われてあたし死にたいし、俺のためにうんこ食ってくわ、って言われて食いたい。

球太 　ちよ、どうしたの？　おかしいよお前？

由夏 　もっとめちゃくちゃにして欲しい。なんであたしの人生なんか終わりになってもいいってべらいその人がわがママをいってくれて、それであたしが泣いてても「知らねえよこんやっ」って顔してほいっ。

球太 　かなり、ああ、——そういつ、感じなんだね。

由夏 　少しでもさ、ほんの少しでも、「ああ、本当にこの人のためになれたんだな」って思えたら、あたしの命なんか安いもんだよ。いつ死んだっていいよ＝

球太 　＝大丈夫？　なんか、——滅茶苦茶なこといつてるけど＝

由夏 　＝でも、そう思える人がいないんだよ。——みんないつの間にかあたしの顔色伺ってくるし。あたしに尻へくへくるし。球太もなんか、思いやりとか持ちっちゃってるし。——ちゃんとして殺す覚悟が無い＝

球太 　＝いや、無いよそんなの！　何いつてんの、あっちゃダメでしょそんな覚悟。

由夏 　★だから無理なんだよ、球太とあたしじゃ。それがだから、——あたしの本当に思ってること。

球太 　え、じゃあ、どうすればいいわけ？

由夏は球太のその問いに失望して答えない。

球太もすでに自分の発言が由夏の意に沿わなかったことを悟る。
問。

由夏 　球太はなんかさ、え、ちよつとまた勢いで言い過ぎてるのかも知れないけど、いついつ時だから言っとくけどさ、いや、んー。——違うか。やっぱり言わない方がいいか。うん。うん。忘れる。

球太 　★ちよつと！　なにになに？　それ、それで止めるのは無理だから！　それは言っつよ。もうそのままで言っただけ言っっちゃってよ、それは。

由夏 　うーん。

一拍。

由夏 　球太はなんかね。

球太 　うん。

由夏 　なんか、変態っぽくしてるだけじゃ、全然変態じゃないんだよ。いいじゃん、それならそれで？　ノーマルならノーマルでいいじゃん？　なんで借り物の変態っていつかさ、——そう！　ホントにやりたい放題やってるの？　って思っちゃうからこつちも。そんな——誰かの真似してるみたいな、レンタルの変態じゃこつちも乗れないな、って＝

球太 　＝なになに、なんなん？

由夏 球太のやりたいことっていつも誰かのレンタルじゃん。

球太 え、なに？ なにそれは？ なんなの、誰かって誰のことよ？＝

由夏 誰かは誰かだよ、「だから」。

球太 「え、またそういってさ、なに、また兄貴のことであってさあわけ？」

由夏 ★え、言っていないじゃん！ 全然「言っていない」！

球太 「いや、今のは絶対」「なんのこり意味で言ったでしょ？ そいつの意味でしょ？」

由夏 「【おんげんげんげん】だから言っていない！ 言っていないって！ 全然兄貴のことなんて考えてないし、といつか、いい加減しついでにからいって、全然別にあなたの兄貴なんか好きじゃない。好きだったことなんか一度も無い！＝

球太 へー？ でも、それはおかしくない？＝

由夏 がおしくないー！＝

球太 じゃあ、好きでもないのになに、やることはやっちゃったわけ？＝

由夏 そうですね！ ——好きな人とかやらないと言ったたら球太ともやらないよ。

問。

球太 え、それはさあ＝

由夏 だってそうなんだもろ。

球太 いや、ええ？ ——なに言いたい放題いってんねちやってんの？＝

由夏 二つめだね、でも本当のじゆ。

球太 ——尻へす女が聞いて呆れるよ＝

由夏 尻へす価値のある相手だったらね＝

球太 悪かったね、尻へす価値が無けい。

由夏 ★うん、そうですね。

一拍。

球太 え、でもさ、——そんなの、ただの、なに？ 結局お前が誰にも尻へさせないよの言い訳

で言っただけなんだじゃなごの？＝

一拍。

由夏 ——ちんちんじゆ。

球太 由夏はただだ、尻へす女になりたいだけなんだよ。それが、そうなれると信じ込んでるだけで。——いや、違うな。由夏はだから、誰か尻へす価値のある人に価値のあることをしてもらうって、——それって自分の価値の無さを誰かに助けてもらおうとしてるだけでしょ？ そうじゃん？ ——自分の価値の無さを自分でわかっちゃってめから、だから価値のある人のために使われたい、ちんちんじゆ。

球太 別に今までがずっとウソだったとは言わないよ。それなり必死だったし。それなりに、怒ったり、泣いたりしてさ。——なんか自分でも本気だと信じられるような瞬間はさ、今までも沢山あった。由夏のことも。本気で好きだと思ってるし。それは本気でね。

由夏 大丈夫・大丈夫。

球太 いや、だから別れないでとか、そういう意味じゃなくて、由夏の気持ちは十分わかったし、まあ、うん。——確かにね、確かに俺は、あまりにも由夏の思ってる人とは違うのかな、っていつのもわかったし。

由夏 誰にも無いんじゃないの？ そんなの。

一拍。

由夏 本気でやりたいこととかさ、そんなの誰にも別に無いんだよ。——みんな、なんかよくわかんないけどなんかをやってさ、——まあ、あたしもスケートとかだってみんなよくわかんないけど始めちゃって、辞める頃になってようやく、ああ、あたしスケート好きなんだな、とか？ 本気だったんだな、とかさ。——そんなの全部、誰だって後づけなんじゃないの？

間。

球太 かもね。

由夏 と、思うよ、あたしは。

間。

球太 だったらじゃあ、——誰かに言って欲しかったよね。わけわかんないうちにさ。——これをやれ、って。命令してもらいたかったよね。

一拍。

球太 だったら別にさ。——いいんじゃないの？ 借り物の変態でも。いつの間にか本物の変態になってるかもしれないだからさ。そう、スニーカーだって最初はなんでこんなもんにそんな、ねえ？ 高い金出す人がいるのがよくわかんなかったけど、今はなんか、あ、これが五万だったらめっちゃ安いじゃん、とか、そういう感覚になってるんだからさ。

間。

球太 なにいつてんだら。いじめさ。

由夏 ★いじめさ。

球太 (何かを思いつく) あ、そう。——うん。

一拍。

球太 あるんだよ、俺にも。実感、っていつのかわかんないけど、ああ、これはホントだな、って強烈に思えていることが昔から、あつた。

一拍。

由夏 なに？

球太 や、さっきなんかさ、——別にそういう意味じゃなかったんだろって、由夏がなんか、自分の理想像じゃないけどさ、——殺す覚悟、だったわけ？　なんか、そういうの持ったやつがいい、って言った時にさ、——や、別に由夏がそういうつもりで言ったんじゃないんだろって、さ、さ、ふつと自然にさ、兄貴の顔が浮かんで来ちゃったんだよね。

由夏 ——違つよ。「そういう意味で言ったんじゃないよ。」

球太 「わかってる。わかってるんだよ、それは。俺の誤解なんだろって。でもさ、

一拍。

球太 由夏はさ、兄貴より俺のが全然いいって言うてくれたじゃない、セックス？　いや、ウンかもしんないけどね＝

由夏 (首を横に振る)

球太 ＝でも、それだけじゃなへて、——まあ、やさしく言っただけなのかも知れないけどさ、でも、由夏はさ、へ、兄貴より全然いいって言う、そういう意味のことをいっばい俺に言うてくれたじゃない？　まあ、——ねえ、それはもちろん嬉しかったし、なんか、すげえ、——なんだろって。「なんだ」の感覚は「じゃないけどさ、そういう風に思っただけが、いっばいあったよ。だけども、

一拍。

球太 俺、なんか、どっかで兄貴よりいいって言われることが、なんか、——苦痛で。いや、苦痛？　っていつか、なんかズしてるとか、——別にそれは、本当に俺が言っただけじゃないっていつか。いや、それは別に比較されるのが嫌だ、とかそういう単純な話じゃなへて、なんだろって。

一拍。

球太　　といつかさ、別に俺は、兄貴より俺を認めてほしいとか、なに、兄貴に勝ちたいとか、そんなことは全然、思ったことがなくて、小さいころから。——俺はだって、兄貴に憧れてたからね。好きだったから、単純だ。

間。

球太　　別に越えたいかと思ったことないし。といつか、越えられる程度のやつで居て欲しくなかったし。ただ、単純に憧れてて。——もう、今じゃ単なるマイホーム・パパみたいになっちゃってるけどさ、昔はホント、カッコよかったから。だから、——氣がきたくなかったんだろっね。兄貴が単なる普通の、マイホームパパに過ぎないっていつことをさ。もう、とっくにわかってたことなんだけども、だけど、——認めたくなかったんだろっね。

間。

球太　　いや、なんの話だかわかんないけどさ、うん。だから、うん。——とにか、くさくさ由夏と会って、今までわかんなかったことがいっぱいわかったし。——由夏と今までの自分、今の自分じゃあさ、全然違ってることは間違いないからさ。だから、——うん。ありがとうね。

間。

由夏　　「ういつ時に涙が出たりするとかかわいいんだけどね。あたしも。

球太　　(笑って)「いよいよ別だ。」

一拍。

球太　　それも含めて由夏なんじゃない？

「はいあひい、

由夏、てきぱきと服を着て、帰り支度を始める。

球太はそれを脇目に見つつ、自分は帰り支度をしない。

双方無言の中、由夏が着替える。鏡を見て髪を整えたり、身だしなみを整える。

やがて由夏は七割方、帰り支度を済ませぬ。

由夏　　由夏。

間。

由夏　　おえ。おえ。

球太 一人で出しよう。

由夏 や、ひとりだと出られないから。

球太 ああ、——え、そういうもの？

由夏 大体そういうでしょ、こつこつとこは。

球太 ああ、そう。フフ——慣れてるねえ。

間。

球太 え、なんで一人だと出られないの？

由夏 たまに殺されてるからでしょ。——残された方が。

一拍。

球太、急いでいると思われないように最大限苦心しながら急いで着替えを始める。

由夏はメイクなど、身支度を続ける。

やがて二人は部屋を出る。

四場 四人揃って

ホテルのフロント。もしくは出入り口。

茉莉が入ってくる。外出できる格好。カバンを持っている。
間。

続いて、聡信が入ってくる。会計を終えたあとである。

茉莉 すみません、いつも。

聡信 じゃあ、今度は割り勘にする？

茉莉 いやー？

ふたり、少し笑う。

茉莉 じゃあ、また連絡するね。

聡信 うん。まあ、しばらくは落ち着かないと思っけど。

球太、登場。カバンなどを持っている。

球太は先に聡信に気づくが、知らないフリをする。

聡信 おお、あれ？ 球太。

球太 ああ。あ、え？

聡信 なにやってんの、お前？

球太 いや、別に。

一拍。

聡信 ま、何ってこともないか、こんなところでな

球太 ㊦まあまあ、

一拍。

聡信 お前返事しろよ、メール。

球太 あ、ああ、なんの？——メール？ あれ、メールなんかもらってたっけ？

聡信 見とけよ、ちゃんと。したたる、もっ。

球太 ★ああ、ごめんごめん。なんか、忙しくてあんまり見てなかったから。あ、ごめん、なんか
急用、とかだった？

聡信 や、急用、なんかねえけどさ、別に。(茉莉の存在に気づき)／あ、ああ、なんかこんなところで紹介するのもあれだけど、茉莉さん。ホラ、前にちょっと話したろ？

球太 え？ あ、ああ、——そうだった、かね。

茉莉 どうもはじめまして。

球太 ああ、どうもどうも。弟の、あの、

茉莉 ええ。球太さん。

球太 はい。

茉莉 よくお話を。

球太 ああ、そうですか。——いろんな？ 悪口を＝

茉莉 ＝そんなそんな。

一拍。

球太 まあ、——それじゃあ、また。

聡信 おお。

球太 こんな、とこでね。立ち話もなんだから。

聡信 まあな。え、誰ときてんの？ ちょっと紹介しろよ＝

球太 いやいやいや、全然、いいから。帰れよ、もう＝

聡信 ＝なんだよ、良いだろ別に＝

球太 ＝いいからいいから、帰れって。

聡信 ★なに、照れてるのお前？ 童貞じゃねえんだからさ、

球太 違う違う違う。童貞をそんな、悪く言つもんじゃねえけどな、

聡信 いいから会わせろって、すぐ帰るから。

茉莉 (球太を気遣って) ノブさん。行きましよう＝

聡信 ＝いいからいいから、一瞬だけ・一瞬だけ。なかなか無いからこんな機会＝

茉莉 ＝そうですけど、

由夏、登場。聡信を見つけて驚く。

由夏 わー、ノブさん！ えー、めっちゃ久しぶりじゃないですか！

聡信 あ、ああ、——ああ、そうですね。

由夏 あー、全然変わらないですね。また、こんな鍛えちゃって体＝

聡信 ＝いやいやいや、別にそんな。

茉莉 (聡信に) ああ、お知り合いですか？

聡信 うん。まあ、——そう。なんていうんだらう、共通の、ね。

球太 まあ、いや、共通ではないですけどね。

茉莉 ああ。まあ、ね。はいはい＝

球太 Ⅱいや、全然普通に俺の友達だったのを兄貴が先に手をつけたっていつか、まあ、そういう女の人で。

茉莉 ああ——。あー、そう？

聡信 いやいやいや、お前人聞きが悪いな、なんだよそれ。

球太 え、でもそうじゃなかったっけ？

由夏 まあ、大体合ってるかな。

聡信 フッフ。そう、——そうね。

一拍。

聡信 じゃ、じゃあ、まあ、

球太 あー、あの、さ。

聡信 うん？ ぶっした？

間。

球太 考えたわ。プレゼント。

聡信 ああ、そう。——なんだよ、読んでたんじゃねえか。

球太 (由夏を指して) この女を俺にへんね。

聡信 や、まあ、——別にそんな、くねって言われても、ねえ。そんな、ええ？ 俺の、とかじゃないし、いや、人だし。

一拍。

球太 ダメか。

聡信 いや、ダメっていうか彼女は、ねえ？ モノじゃないんだからさ、

球太 え、モノじゃないとプレゼントには出来ないの？ 「そんなことも無いと思うんだけど。」

聡信 「そりゃ、なあ。な、なんなんだよ、お前は急に。」

球太 ダメかー。

聡信 え、というか、もうなに、付き合ってる、とかじゃないのだから、ふたりは？

由夏 別れました＝

聡信 Ⅱあ。——そうなんだ。え、ああ、そう。——あ、なに？ 別れたのに来たの、こんなことして？

由夏 ああー、じゃなへい。いじりに来る時は付き合ってたんですけど。やっき、別れて。

聡信 ああ——。ああ、そう。そうなんだ。

由夏 はい。あ、でも、別にそんな、険悪な感じとかじゃないんで。ご安心ください。

聡信 ああ、そ、ああ、ふーん。

球太は由夏を見る。が、由夏は球太の視線に気づくが見ない。

聡信　じゃあ、まあ、良かった。ね。良かった？　良くはないのか。

茉莉　良くはないでしょ。そりゃ。

聡信　「そっかそっか。」

球太　「え、え、じゃあさ、この女がダメなんだとしたらさ、（茉莉）その女は？」

聡信　んんー？　——なにをいってんだ、お前は？

球太　プレゼントでさ。くれよ。

間。

球太　ダメ？

聡信　お前、おかしいんじゃないか、なんか？　なんだ、前はさっちゃんさっちゃんもだっただけだったけど。

球太　なんなんだよ、ダメなのか、ダメじゃないのかちゃんと答えてくれよ。

聡信　ダメ、ダメだよ。ダメ。うん。——なんか気持ち悪いな。　　〇口。

茉莉　ダメってことも無いですけどね。あたしは。

間。

聡信　（茉莉に）なにいつてんの？

球太　（茉莉に）マジっすか？

茉莉　ええ、まあ、こんなおぼささまで良ければ。

球太　いやいや、全然。最高っす。

茉莉　それじゃ、まあ、ね。近いうちにはいいせ。

球太　——ああ、はい。おー。

聡信　（茉莉に）いやいやいや、お前なにいつてんだよ？　え、どうかしてんじゃないの？
茉莉　冗談でしょ。

間。

茉莉　なにムキになっちゃっし。

聡信　いや、ああ、そう？　——え、なんの冗談だよ。

茉莉　冗談は冗談ですよ。球太さんだって最初から。——ねえ？

球太　あ、ええ？　まあ、——はい。

聡信　★あれ、お前はちよっと本気じゃねえか？　お前、なに本気にしてんだよ！

球太　★いや、冗談。冗談だよ。なんか、うん。

間。

球太、帰ろうとして少し移動する。

球太 (聡信に) ああ、気をつけてな。香港。

聡信 え？ ああ。——気をつける？

球太 今、大変じゃん、いろいろ。

茉莉 ああ、そうですねえ。

球太 な。牢屋に打ち込まれないようにね、突然。

聡信 ああ、ああ。——うん。なんだそういつ、あれか、普通の意味か。うん。あれ、いいの？
彼女は？

由夏 あ、はい。お気遣いなく。

球太 (由夏に) じゃあ、

球太、退場。

由夏 香港に行くんですか？

聡信 ん？ ああ、そう。今度ね。そう、急に決まってね、なんか。

由夏 ——良かったですね。

聡信 うん。ああ、まあ、ありがとう。

一拍。

由夏 それじゃ、あたしも。

聡信 ああ、うん。

由夏 (茉莉に) 失礼しました。

茉莉 うえいえ。

由夏、退場。

聡信 人と会うもんじゃねえな、こんなこと。

茉莉 ——人と会うための施設でしょ。

聡信 まあ、そうだけ。

二人、退場。

溶暗。

幕

【参考文献】

『黙示録論―現代人は愛しうるか―』

D・H・ロレンス著／福田恆存訳